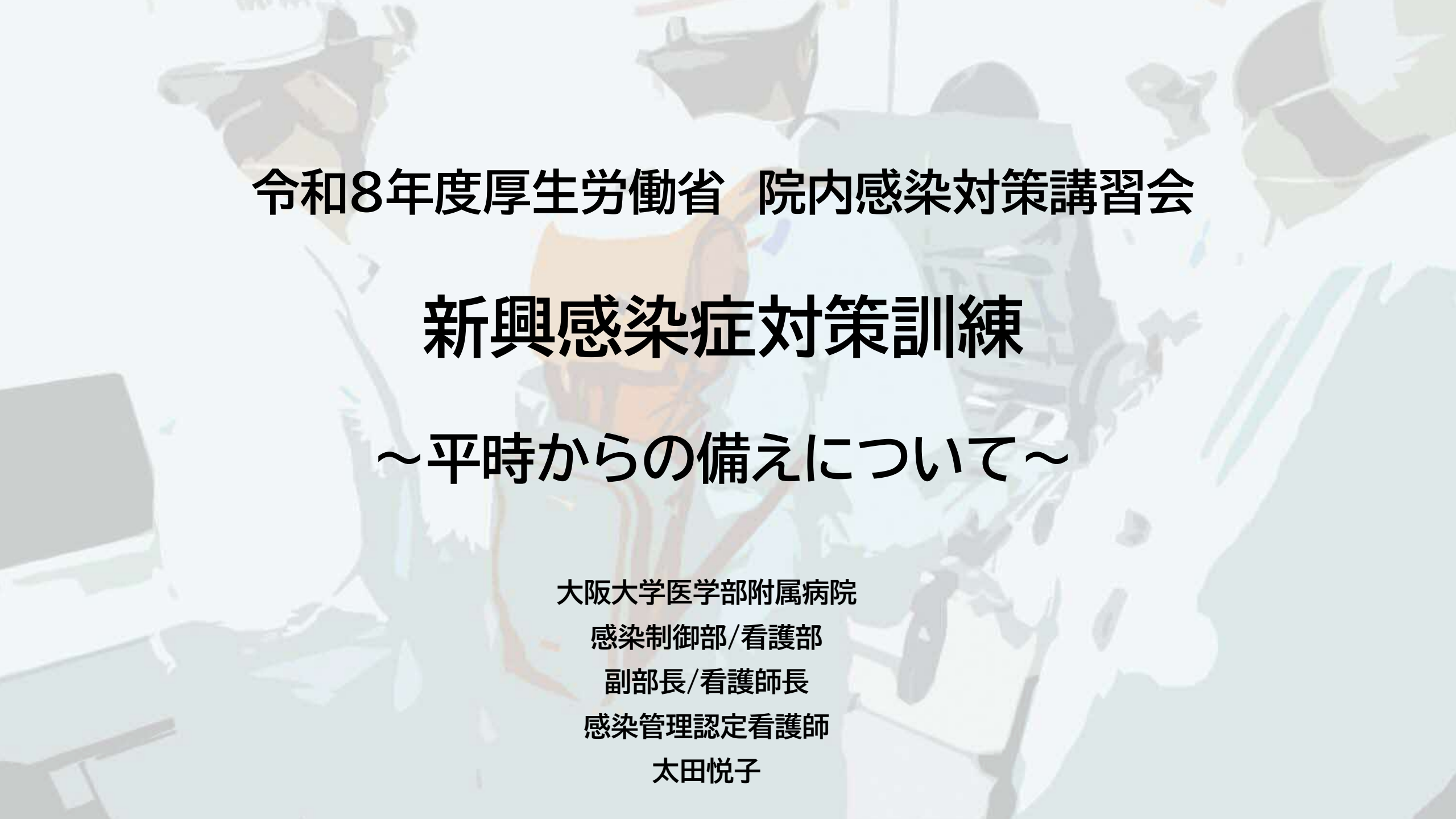




令和8年度厚生労働省 院内感染対策講習会

新興感染症対策訓練

～平時からの備えについて～

大阪大学医学部附属病院

感染制御部/看護部

副部長/看護師長

感染管理認定看護師

太田悦子

新興感染症とは

そのまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与える
おそれがある感染症

具体的には、

- ①新型インフルエンザ等感染症(新興/再興インフルエンザ感染症、新興/再興コロナウイルス感染症)、
- ②指定感染症(既知の感染症のうち重大なもの、ただし感染症法上の一類～三類感染症と①を除く)、
- ③新感染症(未知の感染症のうち重大なもの)

近年の国際的な感染症危機事例

西暦	感染症
2003	重症急性呼吸器症候群(SARS)
2009	新型インフルエンザ(AH1N1)2009
2012	中東呼吸器症候群(MERS)
2015	ジカウイルス感染症
2019	新型コロナウイルス感染症
2022	サル痘

コロナの経験を活かし、
平時から地域全体でレジリエントなしくみ
を作る

医療サージからレジリエンスエンジニアリングへ

医療サージ

突発的な患者の急増に対して、
一時的に病床・人員・物心を増強
する仕組み

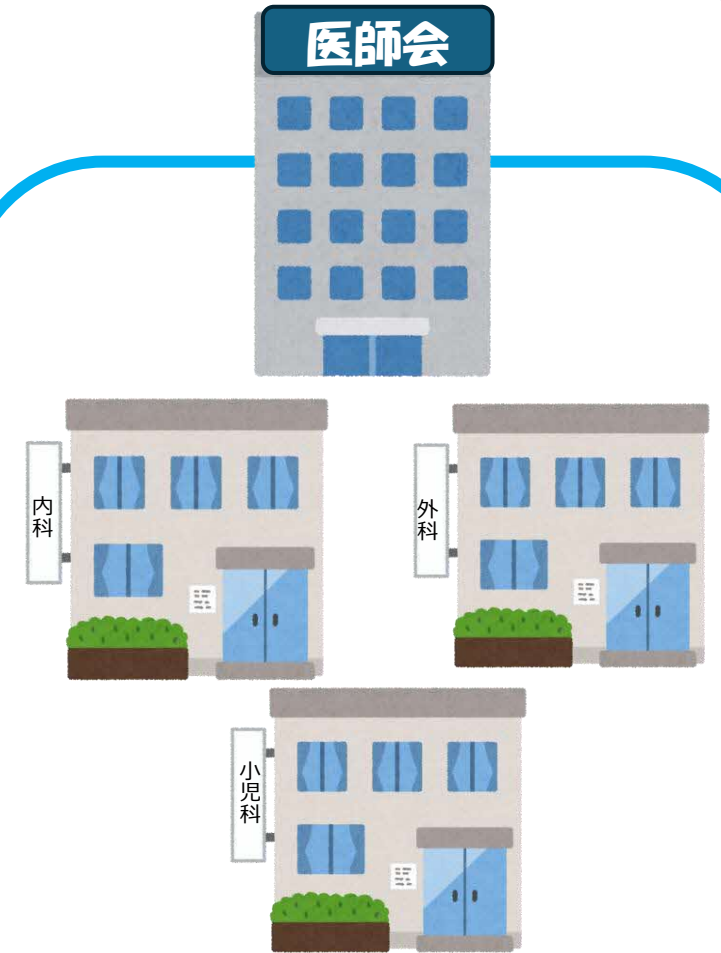
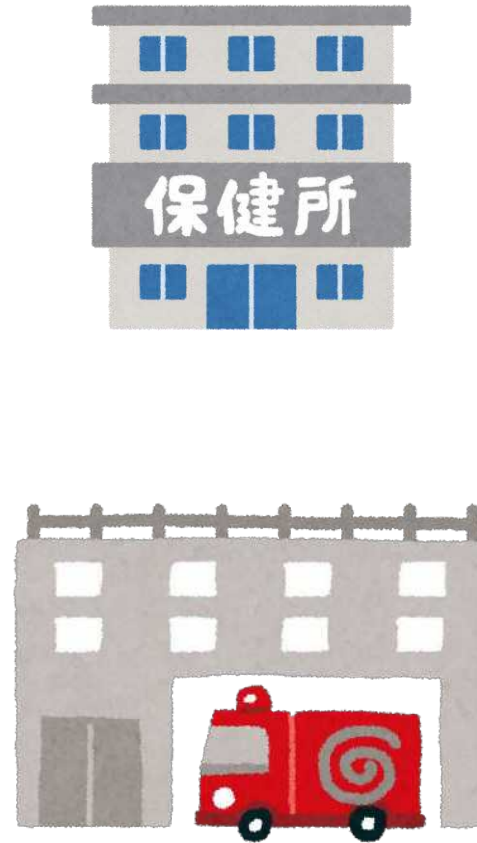
レジリエンスエンジニアリング

通常医療と感染症対応を両立し、変
化に対応した**持続的**な対応を行う

地域全体で新興感染症対策の仕組みを作る



医療機関



診療所・クリニック

Preparedness

平時からの備えについて

- 1 新興感染症を想定した訓練などを通じての体制整備
- 2 新興感染症に関する情報収集
- 3 平時からのネットワークづくり

新興感染症訓練のポイント

1. 感染者(疑い)発生時

- ◆ 患者受け入れ(搬送経路、診療対応PPEなど)
- ◆ 地域や関係各機関との情報共有

2. 新興感染症を想定とした体制の整備

- ◆ BCPの整備
 - ・Incident Command System : ICS
(緊急時総合調整システム)
 - ・備蓄物品の準備
- ◆ 地域ネットワークの整備

1. 患者(疑い)発生時

患者受け入れ

初期診療時のポイント

Scene1 DX疑いの患者の来院時の対応



DX発生国(O国)から帰国した吹田太郎氏
発熱・咳嗽、呼吸困難の症状があり診療所受診

DX : Disease X
(名称未定の新興感染症とする)

吹田太郎 DX疑いの患者

DX発生国に仕事で1ヶ月滞在し1週間前に帰国した男性。

2日前から咽頭痛と咳嗽を認め経過観察していた。

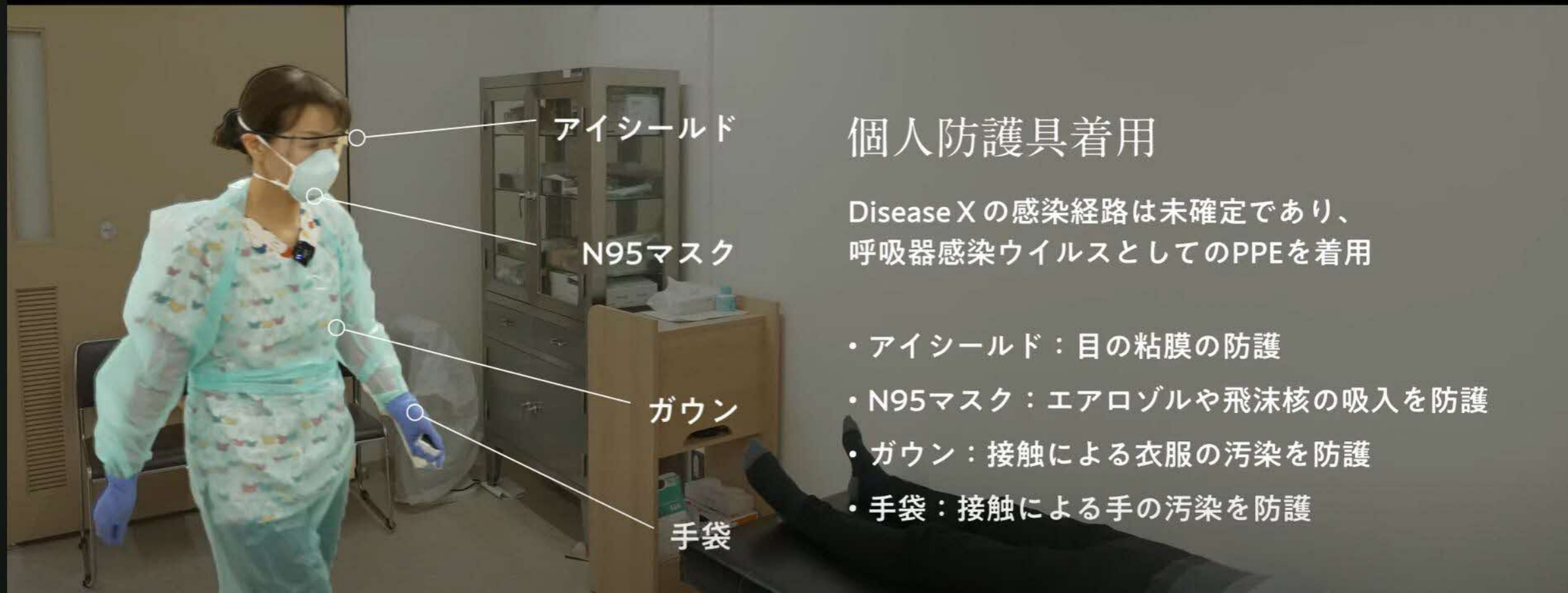
この期間、仕事には行っていた。

本日、38.5℃の発熱と呼吸困難を認め近くの診療所へ自家用車
を利用し妻の付き添いのもと妻に抱えられながら受診。

初期対応 隔離室診療とPPEの着用

Scene1 DX疑いの患者の来院時の対応

DX発生国(O国)から帰国した吹田太郎氏
発熱・咳嗽、呼吸困難の症状があり診療所受診



個人防護具着用

Disease X の感染経路は未確定であり、
呼吸器感染ウイルスとしてのPPEを着用

- ・ アイシールド：目の粘膜の防護
- ・ N95マスク：エアロゾルや飛沫核の吸入を防護
- ・ ガウン：接触による衣服の汚染を防護
- ・ 手袋：接触による手の汚染を防護

可能な限り、陰圧室相当の隔離室で診療

Point

患者受け入れについてのポイント

1

診察場所は空気感染対策が可能な診察室を準備

2

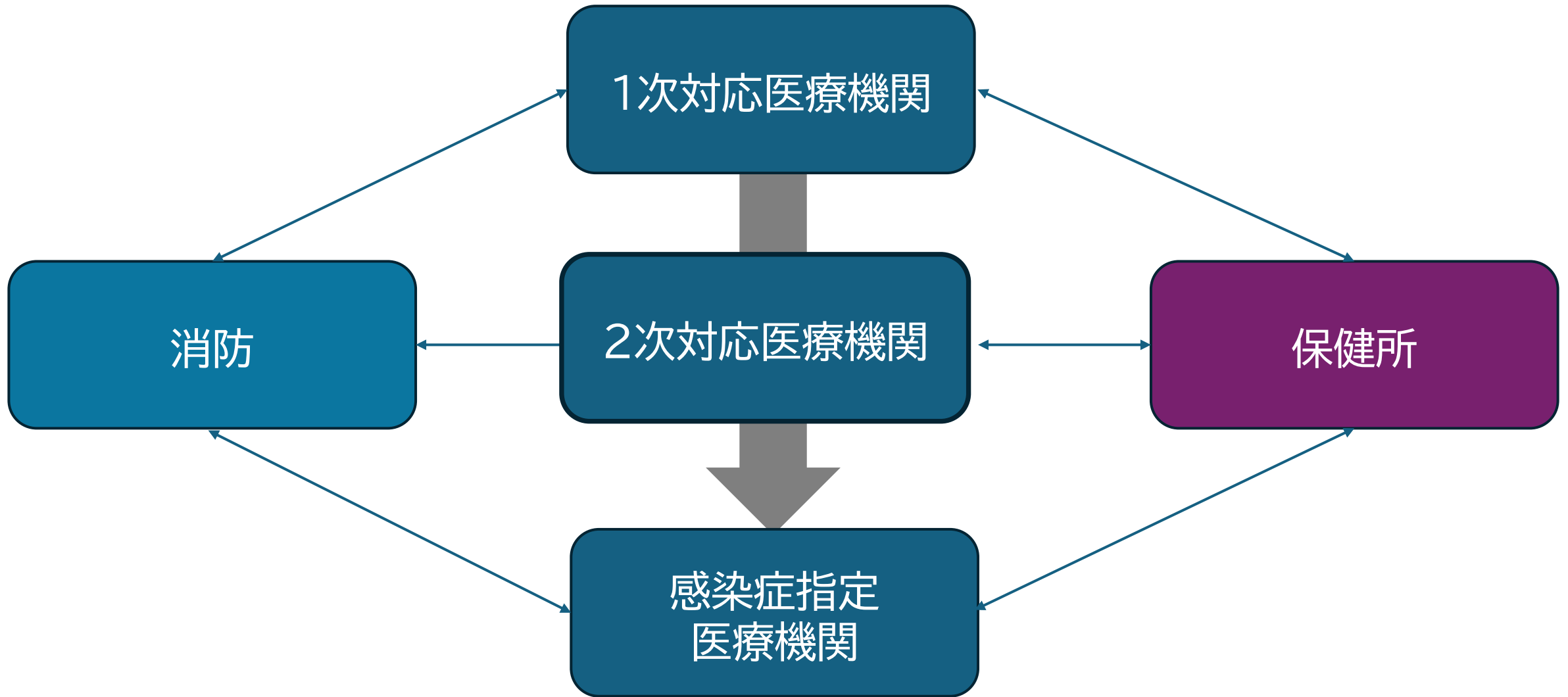
標準予防策に加え空気感染、飛沫感染、接触感染にも対応できるようにPPEを準備

3

体液・飛沫の拡散状況を事前に把握し対応できるPPEを診察室前に準備

地域や各関係機関との情報共有

医療機関、消防、保健所との情報共有と連携



疑い時点から、各機関との情報共有を開始



コロナと同様の感染対策

ヘルメット

ゴーグル

感染防止衣

N95マスク

手袋

医療機関、保健所、消防で同じレベルのPPEでの対応

法的整備前の新興感染症発生時の 医療機関・行政・救急の連携ポイント

情報共有体制

DiseaseXを疑った
時点で保健所・消
防・連携医療機関
で情報共有

各機関の感染対策

各機関でDiseaseX
を疑った時点で標
準予防策＋経路別
感染対策を開始

合同練習の実施

平時から各機関(診
療所－救急－医療
機関－保健所)合同
練習の実施

2. 新興感染症を想定した体制の整備

地域全体でのBCPの整備

Command System : ICS(緊急時総合調整システム)

備蓄物品の準備

1

新興感染症を想定した訓練などを通じたの体制整備

平時からの備えについて

指揮・命令の 仕組みを 整備しておく

※Incident Command System : ICS

災害に対する効果的な組織体制の作り方

指揮・命令系統の作り方

情報共有のあり方

復旧現場と本社・災害対策本部の役割

組織内連携の効果的な連携

外部の多機関との連携

Incident Command System : ICS

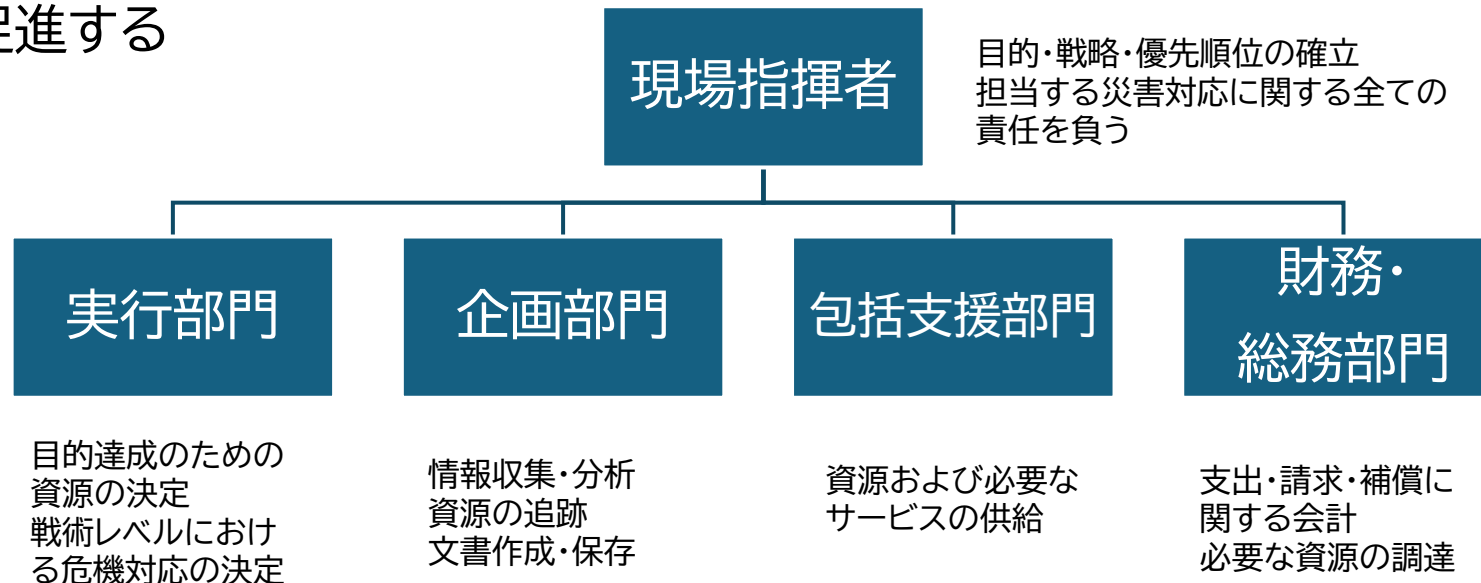
(緊急時総合調整システム)

インシデント(Incident) = 事態

コマンド (Command) = 指揮・命令・調整

システム (System) = 仕組み

- ◆ 米国で山林火災の消火活動の失敗を生かし、あらゆる健康危機(All Hazard)に対応するために作成された標準化したマネジメントツール
- ◆ 健康危機が発生した場合における「効果的で効率的なマネジメント」の達成のための概念ツール
- ◆ 健康危機の規模の大小や種類を問わず用いることのできる柔軟性のあるシステム
- ◆ 健康危機対応のそれぞれの活動が統合され、円滑な調整につながり、全ての関係者が機能的に活動することを促進する



1

新興感染症を想定した訓練などを通じての体制整備

感染拡大時の取り組み

感染拡大時の取組に必要な観点

医療機関間の連携・役割分担の基本的考え方

救急医療など一般の医療連携体制への影響にも配慮した受入体制に係る協議の実施(感染症患者受入医療機関と感染症患者以外に対応する医療機関の役割分担等)

感染症患者受入医療機関やクラスターが発生した医療機関等への医師・看護師など応援職員の派遣

感染管理の専門人材による指導・コンサルテーションの実施など

地域における外来体制の基本的考え方など

2 新興感染症に関する情報収集

新興感染症に関する発生動向を早期に把握

海外の感染症専門機関(WHOやCDC等)が発信する情報などから早期把握を努める

新興感染症発生時にはより詳細な情報を把握

厚生労働省や国立感染症研究所等といった公的な専門機関が発表する情報等を参考にして情報を把握する

2

新興感染症に関する情報収集

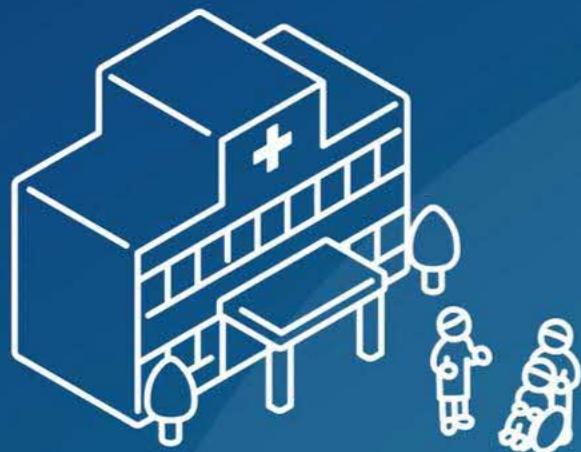
より詳細な情報を把握

新興感染症発生時には 新興感染症に関するより詳細な情報を把握

病院の体制を整えるために必要な情報

- ・ 発生病例の人口動態的な情報(性別・年齢・職業等)
- ・ 発生地域、いつから発生しているか
- ・ 感染経路や感染・重症化のリスク
- ・ 疾患(病院・診断・検査・治療・潜伏期間・感染性期間・ワクチンの有無)など

3 平時からのネットワークづくり



地域全体

病院…保健所



消防所、診療所、高齢者施設など

Stockpiling

備蓄の必要性

新興感染症が流行し、国内外で感染が拡大する可能性は今後もあり得る。

未知の感染症が発生した場合には、PPEやその他の物品の**需要が急に高まり、入手が困難になる。**

医療機関として、このような状況を想定した事前準備を行い、感染拡大があっても安定した医療提供を継続できるよう、**平時より必要な備蓄を計画的に確保する必要がある。**

List of stockpiled items

備蓄物品のリスト

個人防護具

サージカルマスク
N95マスク
アイソレーションガウン
非滅菌手袋
フェイスシールド
ゴーグル

その他

アルコール擦式手指消毒剤
環境清掃クロス
感染性廃棄容器
その他

施設ごとの使用状況により品目を検討する。

Method of calculation

備蓄数の計算方法

医療機関の規模や役割によって、何をどれだけ準備するか算定する。
新興感染症診療部門だけでなく、医療機関の全体の使用量とする。

おおむね2ヶ月分

新型コロナ対応以降の
ある年度の年間使用料 $\div 12 \times 2$ ヶ月

Point

備蓄物品保管のポイント

使用期限を確認する(定期的な期限確認日の設定)

期限が切れる前に、通常使用分として回転させる：**ローリングストック**

漏水、浸水対策(床へ直置きしない、保管部屋の位置)

保管庫の環境(直射日光・高温多湿を避ける)

消毒用アルコールの保管、運用について

一定の数量以上を貯蔵する場合には消防法上の危険物に該当するため法令基準に適合させる必要あり

※貯蓄物品は必ずしも各施設での保管でなくてもよい

(物資取引事業者の保管施設で確保し、有事に優先供給をする取り決めをしておくことでも可)

地域全体の備蓄状況について把握しておく

まとめ

- ◆初動のみでなく、長期的対応を予測し通常医療と共存できるレジリエントな仕組みづくりを行う
- ◆平時から、地域の関係各機関と連携した仕組みづくりや訓練を行う
- ◆平時から、人、物、情報が枯渇しにくい仕組みづくりや対応ができるようにしておく

参考・引用文献

- Front. Public Health, 08 November 2021, Sec. Disaster and Emergency Medicine Volume 9 - 2021
<https://doi.org/10.3389/fpubh.2021.764069>
- 奈良由美子：厚生労働省新型インフルエンザ等対策推進会議（第5回）令和5年11月8日 資料2：次なる感染症流行への課題 -リスクコミュニケーションに関して-
- 永田高志他：災害時の指揮命令システムの構築インシデントコマンドシステム（ICS）緊急時総合調整システムの照会, 杏林医会誌2015.46(4):275-279
- 大阪大学CiDER くつ王サイダーチャンネル 「新興感染症から地域を守れ！チーム吹田の終わりなき戦い」
<https://www.youtube.com/watch?v=iF-nBbKTpEo>